それでも、言葉を（1）

鷲田 清一

（1〜5は教科書本文における形式段落番号を表します）

1 新聞で毎日、誰かの言葉の一節を紹介するコラムを担当するようになって、ずいぶんたつ。引用する一節を探して、日々、言葉の森をうろついていると、たまに言葉の貯金が増えてうれしくなることもあるが、たいていは乏しくなった米びつの底をさらうときのような心細い気持ちでいる。

2 そういう思いとは別に、このところ言葉を選ぶことそれ自体がしんどくなる日がある。戦争、感染症、災害、貧困、権勢の不正と、気の塞ぐような記事と同じ紙面に並んで掲載されることも増え、ふと頬が緩むような言葉、気を取り直せるような言葉を取り上げにくいということもある。だが、それ以上に、①言葉そのものの惨状にめげそうになっている。

3 言葉がまるでうぶ毛をなくしたかのように、むき出しで人にぶつかるようになった。言葉が、露骨な差別や捨てぜりふ、居直りとして礫のように投げつけられたり、アリバイや言い逃れ、時に隠れみのとして巧みに操られたりする場面に、路上で、報道で、頻繁に触れる。

4 同じことの裏返しともいえようが、言葉が現実の前でうなだれる逆の光景もよく目にする。声を上げたところで何も変わらない、聞いてももらえないと、言葉の無力に打ちひしがれ、口をつぐんでしまう人。言葉に何かを託すことをあらかじめ断念した人たち。

5 ②言葉の暴力と無力。③言葉の横暴と言葉の喪失。一方に言葉であおる人たちがいて、もう一方に言葉の前で身をひく人たちがいる。言葉が両端に裂かれ、イエスかノーか、オール・オア・ナッシングといった、両極端な形でしか出てこない。

抽象的な概念を表す語句

本文では抽象的な概念を表す語句が用いられている。抽象的な概念の定義を表す部分や、抽象的な概念に対する具体的な事例を挙げた部分に注目して、意味を捉えるようにするとよい。

確認テスト

本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線①「言葉そのものの惨状」とあるが、これはどのような状況か。適当なものを選びなさい。

ア 新聞のコラムで紹介するような言葉の一節を探しても、なかなかそれにふさわしい言葉が見つからない状況。

イ 悲惨な出来事が多く、気の塞ぐような記事が増えているために、明るい言葉を取り上げにくいという状況。

ウ 言葉がむき出しで人にぶつけられるようになり、一方で言葉の無力に打ちひしがれる人がいる状況。

〔　　〕

(2) ——線②「言葉の暴力と無力」が表す状況となるように、解答欄に入る言葉を三十五字以上四十字以内で探し、最初と最後の三字を答えなさい。ただし句読点も字数に含む。

□□□ ～ □□□ 状況。

(3) ——線③「言葉の横暴と言葉の喪失」とあるが、「言葉の横暴」と「言葉の喪失」が表す状況を具体的に述べた段落をこれより前から探し、それぞれ段落番号を答えなさい。

言葉の横暴〔　　〕

言葉の喪失〔　　〕